巻　頭　言

京都市立病院紀要第39巻1号をお届けします.

本号は第16回合同研究発表会の内容と海外研修報告で構成されていますが，災害拠点病院としての役割を意識した栄養科や臨床工学科の報告，医療の質委員会の重点項目である患者誤認についての臨床検査技術科の検討，医療安全推進室からの虐待対策（SCAN）チームの活動報告，患者の就労支援に取り組んでいる放射線技術科からの報告，さらに看護部からの，患者の気持ちに寄り添った取り組みの報告等，年々多彩で充実した内容になっています.

今年は5月1日から令和と改元され，新しい時代の始まりに期待を込めたいところですが，医療情勢を鑑みますと，以前から叫ばれていた，団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題についての対応はもう待ったなしの状況で，この2025年までに，地域医療構想の実現，医師・医療従事者の働き方改革の推進，実効性のある医師の偏在対策の着実な推進，のいわゆる三位一体の改革に着手していく必要があります.

これに加え，その先の団塊ジュニア世代が65歳をこえる2040年を展望した医療提供体制の改革も重要な課題となってきています．どこにいても必要な医療を最適な形で受けられるよう限られた医療資源（医療従事者，病床，医療機能）を最適化し，医師・医療従事者の働き方改革で，より質が高く安全で効率的な医療をめざすことが求められています．言葉でいうのは簡単ですが，成し遂げるのは並大抵のことではありません．もちろん，このことは日本という国全体の課題ですが，当院も他人ごとではなく果たすべき責務と役割があります．たとえば，医師・医療従事者の働き方改革では，交代勤務制，業務の移管や共同化（タスク・シフト／シェア）も検討すべき課題ですし，地域医療構想では，かかりつけ医，訪問看護，介護，社会福祉等多職種とのさらに密接な連携を模索する必要もあるでしょう.

これらの重要な課題を乗り越えていくには，病院職員が一丸となって同じ価値観，目的意識を持ち，同じ方向をめざす必要があります．以前から職員アンケートで職員満足度が低い状況があり憂慮してきましたが，昨年度からは若い職員を中心として，職員満足度向上のための取り組みが行なわれ，今年はその具体策の一つとしてハッピースマイルカードの運用が始まっています．これは，一緒に働く仲間になかなか面と向かっては言えない日頃の「ありがとう」を伝えるシステムで，今までになかったボトムアップの取り組みです．このように自分たちの職場を良くしたいという職員の具体的な行動に心からエールを送りたいと思うとともに，職員間の団結力を高めるきっかけになると信じています．皆さん，ぜひ盛り上げていきましょう.

最後になりましたが，本号の執筆，校正，編集に携わっていただいた皆様に深謝申し上げます.

令和元年9月

京都市立病院

副院長　　黒　田　啓　史